

2017 日本体験 - 四週間に及ぶ日本との密接な体験による印象

Michael Fraunhofer 氏手記

日本滞在からかれこれ3か月が経過しましたが、まだ昨日の出来事のように思い出されます。何が一番記憶に残っているかという点を尋ねられると、何から申し上げればよいのか迷ってしまいます。とてつもなくたくさんのお思い出を分かち合うことはできます。3,000枚以上撮影した写真は、私たちがどれだけ多くのことを見て体験したことを示しています。

私の大まかな書簡をまずは、以下に記します。

1. あなたにとって最も印象に残った点は、どのようなことでしょうか。

最も強烈な印象として残っているのは、多くの方々とともに過ごした夕べを挙げることができます。日本滞在初日、千葉日独協会の皆様と過ごした歓迎会は、私にとってとても特別な位置付けになっています。人どおりの少ない朝の散歩は、昨日の出来事のように感じます。金沢では、日本文化について数多く学ぶことができました。まったく予期していなかったことですが、一度や二度だけではなく、正真正銘のオクトーバーフェストを訪れたことは、最高でした。旅行中、楠根 (Herr Kuzune) さんとビールや民族音楽を交え、独日友好の乾杯をすることができました。

とても特別な霊的な体験としては、善通寺、天理教本山、そして奈良の仏教的な祈りの場を訪れることが挙げられます。

東京での研修期間、夜、日本の切手を買いました。郵便局職員の心配した面持ちの表情は、忘れることはできません。何故なら、彼は、時折、英語交じりで話をしなければならなかったからです。私は、彼に日本語で自宅へ送付するハガキに必要な切手はどれかということ日本語で説明することができたことで彼は、ホッとした様子でした。

東京メトロの社屋から見える景色は、同様に忘れることはできません。同時に道端におかれている夏の花々の花壇のような多くの小さいものも私の記憶にとどまっています。私たちの旅行の最後を飾ったのは、東京で開催された「Düsseldorf の夕べ」でした。そこで滞在中に知り合った多くの皆様のお顔をお見受けできたのは印象的でした。

2. 日本、文化、社会、日本人について旅行前の想定と異なっていた点は、どのようなことでしょうか。

私自身は、すでに学生時代に日本について携わっておりましたので本当に驚くようなことは、ほとんどありませんでした。独日協会、独日経済サークルや自身の研究を通じ、定期的に日本人や日本文化と接点を持っていました。しかし、日々の生活と言った面では、とりわけ驚いた点としては、スーパーマーケットで食料を安く購入することができるという点、そして外食も安価にできるということでした。旅行前は、価格は明らかに高いであろうと思っていました。特に東京や大阪などでは。全体的に捉えてみると、多くの商品が想像していたよりかなり安かったという点は、意外でした。

3. 実習から得たことはどのようなことでしたか。何が興味深かったのでしょうか。

私の実習は、メトロキャッシュアンドキャリアージャパンで行いました。大型の流通関連企業としてドイツ、Düsseldorf市を拠点とするMetroグループの子会社となります。東京、およびその近郊の10店舗で営業を展開しています。取引先は、ホテル、レストラン、ケータリングなどの食品小売業となります。

本来の職場は、本社がある東京、大森となる筈でしたが、ありがたいことに、多彩な実習プランを組んでくださっておられた関係でメトロの自社市場や日本のパートナー企業を訪問する機会を得ることができました。とても興味深かった例としては、佐川急便を訪れた際、ドイツのDHL通じて得た経験と比較することができました。ドイツと異なり、倉庫は、二階建てで輸送トラックも明らかに小型であったという点です。

お客様に近いところでの業務をより深く知ることを目的に3日間、メトロ多摩境店に赴きました。そこではチームの一員に加えていただき、市場の様々な分野でのお客様や企業をより一層知ることができました。派遣期間中は、英語と日本語を混在しながらも同僚について多くのことを知ることができました。同時にドイツのことについても多くのことを伝えることができたのではと思っています。印象深い点としては、何と言っても精肉部門にいた時のこととなります。同僚は、私たちのところでは、馬肉も食べるというと大変驚いていました。また、この同僚は、ライン地方の郷土料理であるブラッドソーセージに非常に魅了されていました。結局、日本では類似する商品は無いということになります。彼にとっての典型的なドイツ料理としては、豚のすね肉と白ビールということになります。

ドイツ同様、新鮮で地産の商品やそれを店頭で供給するという点にトレンドを見いだすことができます。最も売れている商品は、弁当箱のようにカスタマイズ可能な割り箸や梱包材でした。その他、学んだ点としては、床に落ちた商品は、商品としては、売り物にはならないということでした。

ドイツと比較してお客様は、明らかに従業員より上に位置付けられています。

研修二週目、日本人の同僚は、私を大田市場に連れて行ってくれました。そこで私は、季節に応じた商品や地方からの商品を学ぶことができました。広大な市場には、ありとあらゆる食料品がありました。魅了されました。ブランドとは関係なく、何千もの箱に詰められている個々の果物や野菜。

私は、既にドイツで培ったマーケティング分野、コミュニケーション/PR（プロモーション？）分野での実務経験を駆使することができます。メトロキャッシュアンドキャリアージャパンでの研修は、驚くべきことにこれまでの経験があまり役に立つことがなかった最後の分野となりました。ドイツでは、対外的に打ち出して宣伝する可能生の方が明らかに求められています。

4. 日本文化、社会、日本人で気に入った点は、どのようなことでしょうか。

旅行期間中、感銘を受けた点は、旅行期間中、多くの人々と個人的な出会いをすることができた点にあります。どこでも私たちは、常に友好的に最高のおもてなしの精神で迎え入れてくださいました。どの会合でも、放っておきにされたと感じたことはありませんでした。この点についてとても感謝しています。旅行中、公式な場において日本人の慎み深さは、私にとっては、目にすることが多く深く印象に残りました。

ドイツでは、他者への気遣いは、やや少ないようです。たとえば、電話で大声で話をしたり、列車に乗り込む際にグイグイと入り込んでいきます。これらのことは、ドイツでは日常茶飯です。

四週間に渡る日本滞在で学んだことは、全ての側面で日本がいかに多様性を有しているかということになります。確かに「現代と伝統」という概念で捉えた場合、表面的でステレオタイプ的な見方になってしまうかも知れませんが、私たちが魅了させてくれました。東京と大阪では、百万人規模のこのような大都市がどのように機能しているのかを体感することができました。鳴門や直島では、その代わり、牧歌的で時の流れが止まったような日本の側面を見ることができました。

ドイツ帰国後、とても懐かしいなと思うことがあります。日本では当たり前ののですが。例えば、熟練され、正確な交通システム、夏のあちこちに見かけることができた自動販売機、24時間、一週間いつでも買い物ができること、帰路、駅のプラットフォームの売店で買い物ができること。レストランやお店での接客サービス。とりわけ、美味しい日本の料理やストレスの多い一日を終えた後での広いお風呂で寛ぐことができるということです。

5. 何かがっかりしたようなネガティブなことはありましたか。

私が滞在した四週間の中で、本当に何か嫌なことがあったかということはありませんでした。些細な点で申し上げるとするならば、大阪城に行った際、敷地は、とてつもなく広がったのですが、天守閣は、とても混雑していました。大量のコンクリートを使った修復工事や日本語でしか表示されていない不十分な展示物は、外観の美しさを奪っていました。一般的に一緒に活動した奨学生に言えることは、十分な日本語の知識不足していたことから国境や比較的大きな都市で目立ってしまったことです。

6. 将来の奨学生に対して何をリクエストしたいですか。

歴史家として私は、将来の奨学生には、第二次世界大戦や原子力問題に纏わるような批判的なテーマも議論できるような滞在も期待します。第二次世界大戦は、悲劇的な歴史ではありますが、独日の歴史の重要な基盤となると思っています。原子力については、日本の方向性についてほとんど外国からは理解を得ているとは言いがたい状況です。日本人でない人々にとっては、きちんとした議論をするためには、背景となる基礎知識が不足していると言えます。即ち、現在のエネルギー構造がこの国において展開されているかという点が不足していると考えます。両国の架け橋となって貢献しようとしている奨学生にとってこのような観点から批判的かつ基盤形成につながるこのエネルギーに関するテーマについて議論することが必要と捉えています。私自身、次回、日本に旅行する際は、何としてでも広島原爆ドームを視察したいと思います。

研修中、私たちは、日本の職業体験を認識することができました。JETRO並びにNRW Investを通じて独日経済協力に関して多くのことを知ることができました。できれば、さらにより規模の大きな日本企業を視察してみたいと思います。それは、もしかすると、製造業か手工業への視察を企画するのが良いかも知れません。

今回の日本縦断した旅行において私たちは、幾度となく運動場や他の運動施設を目にする機会がありました。しかしながら、あまり時間が取れず、例えば、野球、様々な日本の格闘技の試合を観戦することはできませんでした。更に日本のスポーツ組織について多く知る機会があればと考えます。